

南あわじ市 平成 23 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

基本事項

		整理番号	864
事業名	淡路島観光協会補助金	予算科目	会計 一般会計・1
担当部課名	産業振興部 商工観光課		款 商工費・7款
電話	0799-37-3012		項 商工費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	南あわじ市補助金等交付規則
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり	
	まちづくりの目標	行って楽しい交流・感動の舞台【観光・交流】	
	施策目標	市民自ら地域の魅力を知り、あらゆる方面からみんなで発信し、南あわじファンを増やす	

Plan & Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

団体の概要	団体の活動目的	(対象者をどのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 多彩で豊富な観光・交流資源の活用と連携による観光ネットワークの構築、淡路島の魅力の発信、一体的・総合的な推進により、淡路島を一つとして全国ブランドで売り出し、広域観光振興の振興、観光客の誘致拡大、観光産業及び観光文化の振興を図り、もって淡路島全体の活性化に寄与する。		
	団体の活動内容	(主な事業、具体的な活動内容等) 淡路島への観光客誘致のための仕組みづくり、イベント及び広報活動を行っている。 【平成22年度実施事業】 「旅チャリ」の運営、「旅すごろくスタンプラリー」実施事業、観光ボランティア運営事業、「クイーン淡路」運営事業、はも・水仙等PRキャラバンの実施、観光圏整備事業、ホームページの充実、観光新聞発行、「おもしろマップ」作成、淡路島牛井プロジェクトの運営、教育旅行の推進事業、「淡路島おおてなしの心コンテスト」の実施、はも初競りイベント・人形まつり・水仙郷スペシャルデー・プロポーズ瓦コンテスト・うずしおマラソン等地域イベントの実施、観光関連受託事業		
	団体の概要	(どのような人が団体の構成員となっているか、構成員の内訳等) 会員数:586件 会員資格:淡路島における観光産業に関係ある団体及び個人 組織形態:淡路島観光連盟、洲本市観光協会、五色町観光協会、南あわじ市観光協会、淡路市観光協会が平成22年4月1日に統合され、新たに「淡路島観光協会」となり、(財)淡路島くにうみ協会内に事務局を置いている。 また、平成24年度からは新たに一般社団法人として(財)淡路島くにうみ協会から独立し、運営していく予定をしており、5月下旬の設立社員総会に向け、現在協議を進めている。		構成員人数(人)
	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体 <input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 () <input type="checkbox"/> 旧町単位 () <input type="checkbox"/> 旧村単位 ()	
	補助金算出根拠	(補助対象事業費) (自主財源) (特定財源) (その他) (3市負担金) 89,815千円 - 20,940千円 - 24,670千円 - 6,700千円 = 37,505千円 37,505千円 × 1/3 12,500千円		
	補助交付期間	<input checked="" type="checkbox"/> 平成 23 年度 ~ 平成 23 年度 <input type="checkbox"/> 設定なし		
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から			

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
資源配分 (インプット)	直接事業費 (千円)	0	0	12,500	12,500	12,500
	淡路島観光協会補助金	0	0	12,500	12,500	12,500
	事務局事務費(市が事務局の場合)					
	財 源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	0	0	12,500	12,500	12,500
	人件費(正規職員)[B](千円)	0	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	27.9	28.2	27.4		
	事業量1(事業に要した日数)					
	事業量2(事業に要した人数)					
	年間経費([A]+[B])	0	0	12,500	12,500	12,500
「目的」対象人数1人当り経費 (円)	-	-	-	-	-	
経費に関する補足説明	平成22年度より 淡路島くにうみ協会へ統合。 【参考】平成20・21年度は、南あわじ市観光協会8,550 淡路島観光連盟1,640 平成22年度まで決算額。平成23～24年度は当初予算額。					

Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 昨年度、淡路島観光協会に統合し、淡路島一本での情報の受信・発信が可能となったことは観光客にとっても非常に大きな効果があると考えます。				自己評価 (5点評価)
					4
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	自己評価 (5点評価)
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 島外の観光客からは「淡路島は一つ」と見られている。国からも淡路島観光圏として認定され、観光において、島内一本化した活動は、効率的であり、大きなメリットを生むと期待される。淡路島を全国ブランドとして売り出し、広域観光の振興、観光客の誘致拡大、観光産業及び観光文化の振興を図り、淡路島全体の活性化に寄与することを設立の趣旨として掲げ、公共性は非常に高く、必要性は高いと考える。				
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 統合して、1年が過ぎ2年目を迎える今年度は観光協会としてさらなる飛躍が期待できる。東日本大震災の影響により観光客の減少は見られるものの、教育旅行等団体客が西日本に集中する傾向にあるため、淡路島へ誘客を促すためにも観光協会の情報発信は欠かすことができない。平成24年度からは一般社団法人として、また、新たな一歩を踏み出すこととなったため、観光協会としての組織基盤が強固となり、これまで以上に観光客ニーズを反映した事業展開が見込まれる。				<p>評価グラフ</p> <p>費用対効果 必要性</p>

Action & Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成24年度にできる改善・改革	平成25年度以降にできる中期的な改善・改革
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
今後の方向性とその理由	<p>平成22年4月1日に淡路島観光協会が発足し、淡路島が一つとなって観光振興策を図る。平成24年度から一般社団法人となり、(財)淡路島くにうみ協会から独立するため、組織基盤が確立するまでの間は現状維持が望ましい。また、島内3市で歩調を合わせた助成を行っており、今後の方向性を決めていくためにも行政間での調整が必要である。観光協会に対しては、収益事業の実施により自主財源及び会員を増やす努力が必要であると考えます。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>島外の観光客等からは、「淡路島は一つ」という認識が高い。これに応えるために誕生した淡路島観光協会であることから、淡路島が一体で売り出せることのスケールメリットは計り知れず、公共性も高い。平成24年度からは一般社団法人化することもあり、組織基盤が安定するまでは、現状維持に努めたい。補助金の廃止は現状の観光協会の収入内訳からも、観光協会組織がなくなることの意味し、廃止した場合は、観光案内や問い合わせが各市に殺到するほか、淡路島の観光振興は後退すると考える。また、3市が同額を補助していることから、南あわじ市が減額すれば、均衡が崩れるため、減額についても慎重に審議する必要がある。</p>	